

## わが国地域金融機関における経営効率性の検討

鈴木誠氏（文教大学）

わが国の地域金融機関は概ね3業態に区分されている。第一に地方、第二地方銀行に位置する銀行法に基づき設置されたいわゆる「銀行」である。第二としては、「信用金庫や信用組合」のように銀行法による設置機関ではあるが、協同組織金融機関として会員向けにサービスを提供している機関。第三は銀行法外の法律に基づき設置された金融機関である。

本研究では、3業態のうち、第一、第二の業態についての経営効率性に焦点を当てた分析を行う。一般に銀行の経営効率性分析というと、三メガバンクと地方銀行における経営分析が中心とされる場合が多いが、ここでは地域に焦点をあてた金融サービスを提供している金融機関を分析対象とした。

F D I C（米国預金保険公社）の調査によると、米国におけるコミュニティーバンクと非コミュニティーバンクの規模の経済に関する比較において、費用関数にトランスログ型費用関数を使用した例が多いようだ。ただし、McAllister と McManus(1993) はトランスログ型費用関数の持つ新たな特性を示し、トランスログ型費用関数を利用した過去の推計結果は、誤解が生じる可能性を示した。そこで、ノンパラメトリックな推計方法を用いて銀行の平均費用を求める研究が次第に増加することとなったようだ。さらに、F D I C による研究では、「銀行規模と平均費用の関係を推計する際にカーネル回帰と呼ばれるノンパラメトリックな手法を採用」している。「カーネル推計法は観測値を用いて平均コストと銀行規模のデータ相互の関係を平滑化する機能を果たしている」とされ、散らばりのある原データに対して、推計値はスムージングされた結果を導いている。計測された結果を眺めると、銀行の資産規模と平均コストの関係には、一定のマイナスの関係が顕著にみられる時期と、そうでない時期に明確に区分されるほか、コミュニティー銀行の性質（貸出先のウエイトにり区別されている）によって大きく異なることが報告されている。

「わが国コミュニティーバンクの効率性の研究」（2018年）では、わが国の信用金庫と信用組合について、スプライン補間を用いて、総資産規模と平均費用との間に一定の経済性が確認されることを報告した。今回は、ノンパラメトリックな手法を用いて、地方銀行、第二地方銀行と信用金庫、信用組合の経営効率性の相違について分析を行い、報告する予定である。